

委員からの主な意見と対応状況 (総論、県づくりの視点、重点戦略、その他)

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
<b>1 総論について</b>			
1	第2回総合部会	将来像を県民とどう共有していくかが重要。県民への伝え方や共有の仕方についても注力、工夫して欲しい。	計画策定のプロセスにおいて、県内4箇所でのタウンミーティングやパブリックコメントを実施し、県民の参画に努めてきたところである。計画策定後においても概要版を作成するなど広報に取り組むこととしており、県民のみならずと将来像を共有し、多くの方に参画していただけるよう努めてまいります。
2	第2回審議会	県民がこの計画に参加して富山を良くしていこうという意識の醸成をどうやって進めていくのがとても大事	同上
3	第2回総合部会	自助・共助・公助の観点からもこの計画を誰がどれ位実行するのが伝わってこない。お金、人力の問題もあり、県・市町村・民間の役割分担が見えてこない。	総論第5章及び第6章において「県民の参画と協働」「市町村との連携等」について記載しているほか、各政策において【県民等に期待する主な役割】として、政策目標の達成に向けて県以外の各主体に期待する役割を示しています。
4	第2回審議会	いかに県民が主体的に参加するようにもっていくかが大事。官・民・個の役割分担と協業・協力の関係を明確にしておかないと、相互に依存してしまい主体的にはならないのではないのか。	同上
5	第2回総合部会	計画が実際にはどれくらいの率で実現されているのか。多くの施策はあるが、最重要課題だけでも実現できるような方向に持って行ってほしい。	PDCAサイクルによるマネジメントシステムを活用し、政策目標の達成状況の継続的な検証や必要に応じた施策の見直しを行うこととしており、政策目標に照らした達成度や課題、次年度の改善内容を総合的に検証するとともに、実施事業についての必要性、有効性、効率性、課題を分析し、毎年の予算編成を通じた改善を図ることで、計画の実効性を確保してまいります。
6	第2回総合部会	計画を作るだけでなく、実行することにも力を入れることが大事である。	同上
7	第2回審議会	世の中の環境が目まぐるしく変化している中で、この計画は、PDCAサイクルにのっとり、柔軟な見直しや弾力的な推進をして欲しい。子どもたちが富山に残ろうと強く感じてくれる魅力ある県となるような計画を期待する。	同上
8	第2回審議会	アウトプットが非常に大事だと思うので、アウトプットを途中で検証できるようなものに焦点を当てながら進めていくということが必要なのではないか。	同上
9	第2回審議会	計画の実践にあたって、PDCAサイクルをどのように回し、検証するかの整理が必要ではないかと思う。	同上
10	第2回総合部会	国立大学ではKPIといった目標設定・客観評価が求められている。総合計画でも数値目標を用いて進行管理することが大切である。	各政策において、政策目標を具体的にイメージするための参考となる指標として【県民参考指標】を設定し、政策目標の達成状況の検証にあたっては、これらの指標の実績や定性的な分析をもとに、総合的に検証することとしております。
11	第2回総合部会	人手不足に対応して、若い人や外国人に来てもらうことも、20年後、30年後には介護や医療にコストがかかることになる。AIやロボットの導入が長期的には必要	総論第3章「活力とやま」の1において、IoT、AI、ロボットなど第4次産業革命の技術を活用し、生産性の向上や新たな付加価値の創出に取り組むことを記載しているほか、各政策においてAIなどのICTの活用を図る施策を掲げています。
12	第2回審議会	県政運営の基本姿勢を「①縦割り前例にこだわらない県政」「②県民が信頼と誇りを持つ県政」「③女性が活躍できる県政」にして欲しい。	県政運営の基本姿勢については、「オープンでわかりやすい県政」「県民の自立と幸せを重視する県政」「スピード重視の県政」などを掲げており、縦割りではなく、総合的かつスピーディな意思決定と対応に努め、女性をはじめ様々な県民が県づくりに参画できる開かれた県政を推進するとともに、県民の自立と幸せの充実への寄与度の大きい施策を重視して、県民の皆様の自主的な取組みと連携・協働しながら地域の重要課題の解決に取り組むこととしております。
13	第2回審議会	県の総合計画と各市町村の総合計画の整合性を見ながら、各年度でそれが実施できているかどうかを検討することも大変重要。市町村との連携を十分密にしていきたい。	総論第5章及び第6章において、「市町村との連携等」について記載しており、計画の推進にあたっては、県と市町村との適切な役割分担のもと、互いに連携・協力しながら、政策目標の達成に向けて取り組んでまいります。
14	第2回審議会	幼稚園から高校までを通じ、防災や命の大切さ等を培う一貫した教育を行い、県民の防災意識の高揚につなげてはどうか。	総論第3章「安心とやま」の12及び基本政策の安心20の【主な施策】の1において、児童生徒への実践的な防災教育の推進について記載している。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
<b>2 県づくりの視点について</b>			
15	第2回 総合部会	一本調子なグローバル化の流れが変わりつつある中、ローカル、コミュニティを大切にしながら、外に対してもオープンな県のあり方を考える必要がある。	県づくりの視点のひとつに「グローバル新時代」を掲げており、アジアを中心とした新興国の成長エネルギーを取り込むとともに、価値観の多様性を認め合いながらも、グローバルの波に埋没することなく地域のオリジナリティを発信していくこととしております。
16	第2回 総合部会	ローカルとは何かについても考える必要がある。北陸新幹線の福井開業を見据えて、富山県のことだけでなく、北陸エリアの中の富山ということも考えていくべき。	総論第6章において、「県境を越えた広域的連携」について記載しているほか、重点戦略の「とやまの価値創造戦略」において、大ゴールデン回廊の創出をにらみ、本県をはじめとする北陸地域がその重要な一角を担うとともに、環日本海地域の拠点県として飛躍することを目指すこととしております。
17	第2回 総合部会	地方からでも新たな価値を生み出せるということが大事。若い人を引き付ける魅力につながるので、この視点は大事にしたい。	県づくりの視点のひとつに「新たな価値創出」を掲げており、経済・文化の両面で、富山にしかない価値や富山の強みとなる価値を創出し、広域経済文化圏において、存在感を発揮できる県づくりを目指すこととしております。
18	第2回 総合部会	雇用は十分あるが、人が足りないというのが実態。東京圏から人を呼び寄せるためには、単なる企業誘致ではなく、付加価値の高い魅力ある仕事がないといけない。	基本政策の活力10の【主な施策】の2において、医薬・バイオ、環境・エネルギー、航空機、ロボット等の新たな成長産業の育成、誘致等による魅力ある職場の確保や新たな雇用創出について記載している。
19	第2回 総合部会	学校現場の多忙な実態の中で、優秀な先生が集まってくるような環境づくりが必要であり、人づくりにもつながるものである。	基本政策の未来9の【主な施策】の3において、教員の多忙化を解消し、児童生徒と向き合いやすい環境整備について記載している。
20	第2回 総合部会	「視点」の順番は、施策を論ずるうえで重要。現行計画では「人材」が1番目となっているが、今回「人づくり」を4番目にしたのはどういう趣旨か。	様々な分野で活躍し、本県の発展を担う有為な人材は、元氣な富山県づくりの根本となる最も貴重な財産であることから、すべての政策の根幹となる視点と位置付けて、最後に記載しており、優先順位を付けるものではありません。総合計画では、これまで一貫して、活力、未来、安心の3つを基本政策の柱とし、「人づくり」をこれら3つの基本政策を支える重要政策として位置付けており、新計画においてもこの考え方を堅持することとしております。
21	第2回 総合部会	富山県単体で進めていける施策とそうでない施策という、2つの視点を持って施策を考えていく必要があるのではないか。	総論第6章において「県境を越えた広域的連携」について記載している。経済活動や人的交流が県境や国境を越えて活発になる中、様々な行政課題に対して、周辺自治体等と協力関係を築き、連携しながら広域的な取組みを展開していくこととしております。
22	第2回 総合部会	経済力だけでなく、ソフトパワーとしての文化が重要だとは思いますが、この文化の振興がどのように富山県の発展につながっていくのか。	県づくりの視点のひとつに「新たな価値創出」を掲げており、文化の産業への応用として、デザインの活用による産業の活性化を図るなど、経済と文化が相互に作用して新たな価値を創出することを目指すこととしております。
23	第2回 審議会	一番大事なのは人づくり。機械やモノだけではなく、どういう時代が来ても心が一番大切なので、小さいころからの教育が、将来の富山県のあるべき姿につながっていく。	県づくりの視点のひとつに「人づくり」を掲げており、重要政策の人づくり1の【主な施策】の2において、豊かな心を持った子どもの育成について記載している。
24	第2回 審議会	人づくりは一番の根幹であり、絶対的な基盤。これからは人が担うソフトの時代だと思っているので、人づくりにこれまで以上の力を入れて欲しい。保育・教育・医療・介護の人材育成に特に力を入れていく必要があるのではないか。	県づくりの視点のひとつに「人づくり」を掲げており、基本政策の未来2、9、安心1、2、9、10の【主な施策】において、それぞれ保育、教育、医療、介護に係る人材の育成について記載している。
25	第2回 審議会	小中学校の時に郷土愛を育む教育をしない限りは、良い大学に行くという価値観を持ってしまつと決して富山県に帰ってくることはあり得ないので、人づくりについては、ぜひ郷土愛をテーマにしてもらいたい。	重要政策の人づくり3において、ふるさとに愛着と誇りを持ち、家族や地域の絆を大切にすることの育成について記載している。
<b>3 重点戦略について</b>			
26	第2回 総合部会	日帰りのビジネス客が増える一方で宿泊者数が減少するなど、新幹線開業後の悪影響も出ているので、開業効果の持続に努めて欲しい。	基本政策の活力17の【主な施策】の1において、観光プロモーションの実施やビジネスマッチングの拡大など新幹線開業効果を持続・深化させる取組みについて記載している。
27	第2回 総合部会	富山の魅力、存在感をアピールするというテーマは、これまで欠けていたことであり、非常によい。	重点戦略の「富山の魅力、存在感をアピールするグローバル展開の推進戦略」において、海、山、歴史、文化、食、ものづくりといった本県のオンリーワンの魅力に磨きをかけてグローバルに発信するとともに、多様な人やモノの流れを活発化し、富山発のネットワークの拡大を目指すこととしております。
28	第2回 総合部会	産学の連携を富山だけでなく、北陸の他県も含めたもっと広い範囲で進めていく必要がある。	総論第6章において、「県境を越えた広域的連携」について記載しているほか、重点戦略の「とやまの価値創造戦略」において、大ゴールデン回廊の創出をにらみ、本県をはじめとする北陸地域がその重要な一角を担うとともに、環日本海地域の拠点県として飛躍することを目指すこととしております。
29	第2回 総合部会	他県との連携や役割分担を適切に行い、北陸エリアとしての存在意義をアピールしていく必要がある。	同上

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
30	第2回 総合部会	10年後を目指した時、大ゴールデン回廊はいつ完成するイメージなのか。	重点戦略の「とやまの価値創造戦略」においては、将来の大ゴールデン回廊の創出を見据え、計画期間内に着手可能な施策に取り組むこととしております。具体的には、人・物・情報の流れを活性化し、経済・文化の両面でイノベーションと人材の高度化による価値創造の流れを創出し、本県の強みとする分野での拠点性の確立を図ることとしております。
31	第2回 審議会	地球温暖化によって北極海航路が注目されているが、富山が一番メリットがあるのではないかと考えている。新潟や金沢と伍して富山が日本のハブ港になるとしたら、大ゴールデン回廊構想の中で、港湾についてもアンテナを高くて準備しておいたほうがよいのではないかと。	重点戦略の「とやまの価値創造戦略」において、伏木富山港の機能強化や物流の活性化について記載しており、大ゴールデン回廊が創出された際には、環日本海地域の拠点県として飛躍することを目指すこととしております。
<b>4 地域別の特性と取組みについて</b>			
32	第2回 県西部委	活力とやまの「取組みの基本方向」において、電子部品、金属製品とあるところに小矢部市の基幹産業である繊維製品をぜひ加えてほしい。スポーツウェアも「世界に誇る特色ある製品」として記載してもらいたい。	砺波地域の「現状と課題」に「繊維」を、「取組みの方向」に「繊維」及び「スポーツウェア」を追記している。今後も県内産業の生産性向上や付加価値の創出につながるよう各種施策を進めてまいりたい。
33	第2回 県西部委	活力とやまにおいて、高岡地域では、来年は伴家持生誕1300年である「越中万葉」がある。万葉歴史館や氷見の家持の22の歌碑を巡るツアーも行っている。これを活用した観光も光をあててもらいたい。	高岡・射水地域の「活力とやま」の「取組みの方向」の「観光の振興」の主要な観光資源の例として、『越中万葉』の歌碑や万葉歴史館などの歴史文化資源を追記している。現在、伴家持など富山の偉人ゆかりの地を巡るコースを教育旅行パンフレットで紹介しており、今後も、越中万葉の歴史文化を活用した観光誘客に努めてまいりたい。
34	第2回 県西部委	安心とやまにおいて、福祉的な観点も大事だが、氷見では公共交通機関の確保が課題となっている。地域での生活を守るための地域交通の確保といった観点も大事ではないか。	各地域の「安心とやま」の「取組みの方向」において、「身近な公共交通サービスの確保・充実への支援」を追記している。今後とも、地域住民の生活の足の確保の支援に努めてまいりたい。
35	第2回 県西部委	安心とやまにおいて、野生動物の保護管理も大切だが、まずは鳥獣害対策である。氷見でもイノシシを多く駆除している。鳥獣害対策にも取り組んでもらいたい。	各地域の「安心とやま」の「取組みの方向」において記載している「野生鳥獣の管理」とは野生鳥獣の生息数や生息域を縮減することであり、この中には被害防止対策も含まれているが、被害防止対策についてより明確化する観点から、「野生鳥獣の管理の強化」の前に「人や自然生態系、農作物等へ被害をもたらす」を追記している。 また、【未来とやま】において、農作物に関する鳥獣被害被害発生防止対策への支援について記載しているところである。
36	第2回 県西部委	活力とやまの「農産物」に「庄川おんせん野菜」もいれていただきたい。商標登録を出願中でエビデンスもとっているところ。また富山の美味しい朝ごはんプロジェクトにも採用して進めており、加工品も少しずつ進めている。	砺波市・南砺市・小矢部市のブランドは、現在約80あり、「ふく福柿」や「となみ野りんご」などが記載されていない中で、これらのブランド品目と比較しても、「庄川おんせん野菜」は新しく、量的にも少ないことから、他地域とのバランスを鑑みて具体名称の記載は差し控えることとするが、県としてもブランドの確立のための活動を支援してまいりたい。
37	第2回 県西部委	安心とやまにおいて、農地防災事業は、現在は庄川左岸地区だが、先を考えると、射水地区にも東部・西部・中央と排水機場の長寿命化として国で事業をしていただいている。今の排水機場のキャパを超える雨も増えてきている。次を考えると射水の排水機関連を少し見直しを図る必要があるのではないかと。	高岡・射水地域の「安心とやま」の「取組みの方向」の「農地防災事業等」の取組み地区の例として、「射水平野地区【射水市】」を追記している。 現在、国営施設機能保全事業「射水平野地区」において、老朽化した排水機場の長寿命化及び耐震化対策を実施しており、今後も、ストックマネジメントの手法を用いて、適切な維持管理を継続させるとともに、適時適切な長寿命化対策を実施し、将来に渡って安全・安心が確保されるよう、国と調整しながら、進めてまいりたい。
<b>5 その他全般について</b>			
38	第1回 審議会	日本に問われているのは人の力で、人の数と質の確保が重要である。	地域の社会活動を支える人材は、県づくりの根本となる最も重要な財産であり、これからの富山県や日本の発展を支えるとともに、グローバルな舞台でも活躍できる、創造性と行動力にあふれる人づくりを進めてまいりたい。
39	第1回 審議会	アンケートからみても、前回計画策定時(5年前)と新幹線ができた今では状況が変わってきており、策定時と比べて乖離しているもの、現状にあてはまらないものを分析し、対応策をつくり、新たな方向性をつくっていくことが大事である。	ご意見のとおり、県民の半世紀近い悲願であった北陸新幹線が2015(平成27)年3月に開業するなど、本県を取り巻く社会経済情勢は大きく変化してきていることから、今回総合計画を見直し、県政の新しい方向性を示していきたいと考えております。
40	第1回 審議会	正しいデータに基づいた議論が行われればおのずとある方向へと収束していく。具体的なデータに基づいて議論を重ねていくことが重要である。	新たな総合計画にあたっての有識者アンケート、県民意識調査、若者アンケートの結果や各部会で示した多くの「現状と課題」の資料データを分析・活用し、県民の意識やニーズを広く計画に反映させてまいりたい。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
41	第1回審議会	まず現状把握をしっかりと行うことが大切であり、ビッグデータなど数値的な根拠、エビデンスを捉えた上で、今後の富山県の取組みをつくっていくことが必要	同上
42	第1回審議会	富山で生まれ、育ち、結婚し、子育てし、亡くなってそれでよかったなどひとりでも多くの人が思えるような富山をつくれればいいなあと思っている。やっぱり人づくりが大事でそれぞれの部分で高い志を持って輝く人たちが、一人でも多くいれば、活力のあるふるさとができるのではないかと。	ご意見のとおり、子どもから若者、女性、働き盛り、高齢者などあらゆる県民のライフステージに応じた人づくりの取組みを進めることが重要である。経済・社会の目まぐるしい変化にも対応できる柔軟性と高い志、広い視野、先見性を持って、これからの富山県や日本の発展を支えるとともに、グローバルな舞台でも活躍できる、創造性と行動力にあふれる人づくりを進めてまいりたい。
43	第1回審議会	現行計画は精緻につくられており、指標も進捗しているなど実効性の面で効果があったものも多いが、問題は事業継続性であり、長続きする仕組みを作ることが必要である。例えば林業であるとか。	計画、実行、評価、改善のPDCAサイクルによる現在のマネジメントシステムを踏襲して計画の実効性を確保していくこととしている。また、評価方法などマネジメントシステムについては、より効果的、効率的な手法となるよう、必要に応じて改善を行っていくこととしている。その中で、長期の事業継続性を重視すべきものについては、しっかりとそれを踏まえて取り組んでまいりたい。
44	第1回審議会	地域委員会を新たに設けて県と市町村が施策を連携させていくとのことなので、施策の実施にあたっては、県と連携をとっていくことが大切	どのようにしたら県民生活に最大限の成果をもたらすことができるか、また、各地域の特色、魅力をいかに発揮させて県全体としてバランスのとれた発展を図っていくかという視点に立ちつつ、県と市町村が適切に役割分担を図り、互いに連携・協働しながら、政策目標の達成に向けて取り組んでまいりたい。また地域委員会において市町村長の方々にもご参加いただき、しっかり議論して連携したうえで、新しい総合計画を策定してまいりたい。
45	第1回審議会	県と県内15市町村と一緒に連携して、そして行動計画を練っていくことをぜひお願いしたい。	同上
46	第1回審議会	富山は真面目で信頼があって、その歴史をずっと何百年も続けてきた。子どもたちだっけかなり傷ついていると思う。富山は信頼を回復し、誇りの持てる富山になってほしい。	職員一人ひとりが、公務に要する経費は県民・国民の税負担によるものであることに思いを致し、今後とも、県民奉仕の精神に徹し、公正で適切な事務事業の執行に努めるとともに、引き続き、オープンでわかりやすい県政の推進に積極的に取り組んでまいりたい。
47	第1回審議会	直接人口を増やすのは難しいので、残った住んでいる人たちがいかに幸せな生活が送れるかということに力点を置いたほうがよい。	雇用・教育水準の高さをアピールするなど、移住・定住の促進に努めるとともに、子育て世代の経済的負担の軽減など、人口減少対策に努めるとともに、若者、女性、高齢者の就業率を高め、生産性の向上に努めてまいりたい。また、県民のニーズの把握につとめ、満足度の高い施策を推進し、地域の活性化に努めてまいりたい。
48	第1回審議会	富山県が住みよい県であるということを私たちは訴えていかなければならない。そういう意味でもオープンでわかりやすい県政を進めていただきたい。	タウンミーティング、中小企業との対話、商工業や農林水産業の若手経営者との意見交換など様々な機会を通じて、知事が直接県民と対話し、共感しながら、県民ニーズの的確な把握に努めます。またブログ、活動記録、ラジオ番組などを通じて、県の取組み状況、考え方などを、オープンに分かりやすく説明し、積極的な情報提供に努めてまいります。
49	第1回審議会	公契約に価格条件に加えて企業の雇用状況を要件として加えるなどの工夫が考えられる。	物品の入札においては、平成29年4月より県内企業の育成及び雇用促進に資することを目的に、地域要件を付した条件付き一般競争入札を導入します。
50	第1回青年委員会	総合計画審議会の内容が多くて驚いた。県民にもっと広くPRする方法を検討いただきたい。どのくらいの人が総合計画を知っておられるかを考えたときに、とてももったいないと思う。	計画策定後、計画書を関係機関へ配布するほか、県民にわかりやすい概要版を作成、配布することとしております。また、県の広報媒体(広報番組、広報とやま等の折込み広告)の活用やホームページへの掲載により県民への広報を図ってまいりたい。
51	第1回活力部会	富山には休日に子ども連れで一日中楽しめる大型施設がない。例えば福井県には、恐竜博物館に加え「エンゼルランドふくい」という年間入場50万人を超える施設があるが、富山にもこのような施設ができれば「子育てに手厚い、子どもが元気な県」として全国的に知名度が上がり、よい観光スポットにもなるのではないかと。	施設の新設については、敷地の確保や技術的な課題や採算性の調査などが必要となりハードルが高いが、富山県美術館の「オノマトベの屋上」やワークショップ等、また環水公園で開催される富山県美術館開館記念特別イベントなど、子ども連れをはじめとする幅広い層にとって魅力的な観光地点・イベントについて、誘客の促進を図ってまいりたい。
52	第1回未来部会	子どもだけでなく、今後高齢者になる大人にとっても明るい未来がないと年を取る意味が無い。私たちにあって、どんな未来が待ち受けているのかということ、希望として計画に組み込むとよいのではないかと。未来というものをきちんとすべて網羅できるような形での県のセーフティネットを作る必要がある。	第3編の長期構想において、10年の計画期間よりもさらに長期的な展望に立ち、県民が20年から30年後の将来へ希望を持てるようなビジョンを提示することとしております。
53	第1回未来部会	富山県の逆さ地図は、非常に重要であるが、北陸新幹線の開業により、時間距離が縮まったところは、新たな経済圏になるので、それらの関わり方をもう一回作り直していただいて、アジア、中国、韓国、ロシアとのつながりの近さというものをもっと強調していただきたい。	平成24年度に経済圏の拡大を強調するために、台湾や中国の都市等の表示範囲を拡大し、韓国やロシアの主要港や主要港を擁する都市名を新たに表記した。また北陸新幹線や高速道路情報の更新も行ったところである。 今後、改訂にあたっては、国土地理院の地図を活用しているメリットを活かしながら、ご提案の主旨も踏まえ、どのような工夫が可能か検討したい。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
54	第1回未来部会	施策はたくさんメニュー化されているが、掲げた目標の実施体制、運用について、現時点でどのようなことが考えられるのかということをは是非盛り込んでほしい。	総論第6章において、「計画の実効性の確保」と「計画の推進」について記載しており、PDCAサイクルによるマネジメントシステムの活用により計画の実効性を確保するとともに、県民をはじめとした様々な主体が、それぞれの役割分担をしっかりと担い、知恵とエネルギーを結集した全員参加により計画の推進を図っていくこととしております。
55	第1回総合部会	「いじめ自殺ゼロプロジェクト」のような具体的なプロジェクト名とスローガンなどの目標を掲げてはどうか。	本県の発展や県民の幸せのため重要な政策課題であって、優先かつ横断的に取り組むべきものを「重点戦略」として設定し、政策のメリハリをもたせて計画を推進することとしており、この重点戦略の展開方向を踏まえ、県民の皆様にもわかりやすい目標設定になるよう努めてまいります。
56	第1回総合部会	中学生や高校生にも県の総合計画をPRしてほしい。若いときから富山県の素晴らしさを理解する一助にもなるので、浸透してもらいたい。	富山県の未来を担う子どもたちにもこの計画について知ってもらうため、前回は計画の内容をわかりやすくまとめた、子ども用広報誌小学生版(4年生以上)と中学生・高校生版を作成し、配布した。今回も効果的なPRについて検討してまいります。
57	第1回総合部会	環日本海・アジア新時代というタイトルは、中国なんかが変わっていくのも新しい時代かもしれないが、新時代というのは何となくいいものに見えてしまう。	特に中国、アセアン、インドといったアジアが他の地域に比べて成長の勢いが増しており、「県づくりの視点」において、これら多くの国々と友好関係にある日本は人的・物的交流でアジアの成長に貢献し、成長のエネルギーを取り込んでともに発展していくことの重要性について記載しています。
58	第1回総合部会	地域の産業の活性化に金融機関が占める割合は非常に大きいので、新たな総合計画にも県内の金融機関の意見や協力を仰ぐ必要があるのではないかな。	この計画の策定にあたっては、地域金融機関の方に審議会、部会、地域委員会の委員・専門委員にご就任いただいております。それぞれの専門的な見地からご意見をいただいております。 また、地方創生の取組みの中では、金融機関の役割がとりわけ重要視されていることから、そういった観点も踏まえ、今後の施策に取り組んでまいります。
59	第1回総合部会	国際情勢は急速に変わるので、新たな総合計画も状況に応じて変えるという覚悟を持ってほしい。	計画に掲げた政策については、マネジメントシステムなどによって評価及び必要に応じた改善等を行いながら、社会経済情勢の変化にも柔軟に対応した取組みを展開していくこととしております。
60	第2回総合部会	非常に多くの施策が掲げられているが、その財政的裏付けをどうするのか。	計画に掲げる100の政策に基づき県が実施する事業について、事業担当部局による自己評価により、その必要性、有効性、効率性、課題を分析し、毎年の予算編成を通じて改善を図っていくこととしております。
61	第2回総合部会	人口動態で、昨年外国人が転入超過とのことだが、県として、今後どういった形で外国人の転入問題を考えていくのか。	外国人住民の増加、定住化の進展を踏まえ、多言語による情報提供や相談体制の充実など、外国人を含めたすべての県民が互いの文化の違いや価値観を尊重し、ともに安心して暮らせる地域づくりを推進するとともに、成長著しいアジア地域の成長エネルギーを本県の発展につなげる観点から、アセアン地域等からの優秀な留学生の受入れの拡大や県内企業への定着を促進することとしております。
62	第2回総合部会	することばかりではなく、無駄の削減も非常に重要。やめることも書く必要もあるのではないかな。	PDCAサイクルによるマネジメントシステムを活用し、政策目標の達成状況の継続的な検証や必要に応じた施策の見直しを行い、政策目標に照らした達成度や課題、次年度の改善内容を総合的に検証することとしております。
63	第2回総合部会	市町村合併後も各地域の行事等はそれぞれの地域で支えており、地域性を尊重する必要がある。	魅力ある地域づくりのためには、独自性と総合的な地域力を発揮した地域ぐるみの取組みを進めていくことが重要であることから、「地域別の特性と取組み」において、各地域の特性或課題を踏まえた主な取組みを記載することとしております。
64	第2回総合部会	富山県にいれば、安心して働いて、安心して死ねるといようなメッセージを発することができないか。	総合計画の策定にあたっては、計画全体としてそのようなメッセージを発することができるよう取り組んでまいります。
65	第2回審議会	県民の幸福の総和をどう高めていくかということが県の政策の一番大きな役割ではないかと思っている。幸福が一部の層にだけ固まるのではなく幅広く底辺層の底上げもしていくことによって、安心して豊かな生活ができる基盤をつくるのが大切	県づくりの主役は一人ひとりの県民であり、県は、県民が自らの努力を基本としてお互いに協力しながらそれぞれの目指す幸福を実現させていくことを最大限支援する役割を果たすこととしております。
66	第2回審議会	県としてキラリと光る特徴をひとつ持つべきである。この多くの政策の中から10年後に、オンリーワンの魅力やキラリと光る特徴が出てくることを期待する。	この計画を着実に実施することによって、本県のオンリーワンの魅力に磨きをかけ、発信できるよう努めてまいります。
67	第2回審議会	必ずしも県が全て予算化して何かをやるということだけを記載する必要はないのではないかな。予算化はしないけれども、富山県としてこういうことをやっていきたい、あるいはこうなってほしいという目標を示すことも非常に重要ではないかと思う。	総論第5章及び第6章において「県民の参画と協働」「市町村との連携等」について記載しているほか、各政策において、県民の視点から見た政策目標を設定し、その達成に向けて各主体に期待する役割を示しています。
68	第2回審議会	低迷する林業界を元気にするお手本として、公共建築物に県産材を使い、森林の整備と林業の振興につなげている富山県の取組みを全国に発信してはどうか。森林が地域活性化の財産となるよう日本全体で知恵と力を出し合っていく時代の流れを富山県がリードしていけばよい。	この計画を着実に実施することによって、本県の取組みを全国に発信できるよう努めてまいります。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
69	第2回審議会	優良無花粉スギ「立山 森の輝き」を県外に発信していけるようスピード感を持って研究・開発を行い、スギ花粉症をなくすモデル県となしてほしい。	苗木の増産に向け生産施設の整備を進めてきたところですが、引き続き、努力してまいりたい。
70	第2回審議会	『パノラマ キトキト 富山に来られ』は、「パノラマー立山」「キトキトー魚」のイメージが強いが、パノラマの発想をふくらませ、多様なキトキトを発掘し、磨き上げていけばどうか。	「パノラマキトキト富山に来られ」は、本県の自然だけでなく文化や歴史も含めた景観と、新鮮な食という本県の特徴ある観光資源の魅力・イメージを表現したものです。ご指摘のとおり、今後とも、自然や食に加え、文化や歴史も含めた本県ならではの観光資源の掘り起こし・磨き上げに努めてまいります。

委員からの主な意見と対応状況（人づくり分野）

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
<b>1 優れた知性、豊かな心、たくましい体を持った子どもの育成</b>			
1	第1回青年委員会	自己肯定感を挙げる(海外80%に対し日本は50%)教育が重要である。自分を肯定的に捉え、自分を愛することが人づくりの土台になると思う。	【取組みの基本方向】において、自己肯定感を育む取組みについて記載している。 現在、いのちのメッセージカードの配付、いのちの教育講演会を行うとともに、各学校でいのちの授業や道徳教育を充実させることで自分や他人を大切にすることを育む取組みを実施している。 また、子供達の習熟度に応じた個別指導や悩み、不安を聞く個別相談で大事にされていることを感じることや14歳の挑戦を通して自分の役割を果たすことなどにより、自分を愛するとともに、他者を思いやり支えあう心を持った豊かな人間性を育ててまいりたい。
2	第1回審議会	人づくりに関して、思いやりの心を小さい時からの子育てで教育で教えることが必要である。人として尊敬できることを小さいころから教えられるのではないかと。	【取組みの基本方向】において、「他者を思いやり支えあう心、感動する心を持った豊かな人間性の育成」及び「基本的な人格形成の場である家庭の教育力の向上」について記載している。 学校では道徳の時間を中心に、全教育活動を通じて、人への感謝や思いやりの心などの育成を図っている。平成30年度から「道徳」が教科化されるが、今後、その趣旨を踏まえ、道徳教育の充実に努めてまいりたい。 また、県では、ホームページや家庭教育かわら版を通して、家族とのふれあいの中で、人への信頼感や思いやりが育つことなど、子育てや家庭教育に関する情報を提供している。今後も思いやりやお互いを尊敬し合える心を小さい頃から育む教育の推進に努めてまいりたい。
<b>2 チャレンジ精神あふれる、困難にくじけない子どもの育成</b>			
3	第1回青年委員会	ボランティア活動を身近なものとして捉えている人が少ない。小中学校のカリキュラムにボランティアを組み込めば自発的に参加しようとする人が増えるのではないかと。	【主な施策】の2において、主体的に社会へ参画する力、貢献する意欲や態度を持った人材の育成を記載している。 高校では夏と秋に「さわやか運動」を実施しており、学校によっては、地域の小・中学校と合同であいさつ運動や通学路での清掃等のボランティア活動を実施している。 中学生がボランティア活動等に関わることは大切なことであり、今後ともこうした取組みを推進してまいりたい。
4	第1回青年委員会	富山の方はまじめで進学意欲が高いが、文化芸術スポーツなど一般教科以外に興味を持った人へのバックアップが弱いと感じている。機会を設けてあげる。伸ばすチャンスを与えるようもっと支援した方がよいのでは。	人づくり1の【主な施策】の4において、芸術文化の全国大会に出場する生徒に対する支援や文化活動に取り組む個人や団体の活動の推奨を記載するとともに、人づくり2の【主な施策】の3において、スポーツ能力に優れた児童の発掘・育成を記載している。 今後とも文化芸術スポーツなどの分野への支援についてしっかりと取り組んでまいりたい。
5	第1回総合部会	企業と人材を支えていくものとして、グローバル化がこれからどんどん進んでいく。そういう意味では、人材の育成として、異文化共生に関するグローバル教育への注力が今後必要になってくるのではないかと。	【主な施策】の1において、幅広い教養と課題解決能力を備えるとともに、ふるさとに愛着を持ったグローバルリーダーの育成について記載しており、国際的に活躍できる人材や、グローバルな視点で地域社会に貢献できる人材育成にしっかりと取り組んでまいりたい。
<b>3 家族や地域の絆、ふるさとを大切にする子どもの育成</b>			
6	第1回審議会	子どもたちが都会に出て行っても、この子どもたちが自分の育ったふるさとを思い起こして、ふるさとのために何か頑張って仕事をしてくれればいいと思う。	【取組みの基本方向】において、「郷土の自然、歴史・文化、産業や先人の英知や偉業等への理解を深め、ふるさとに誇りと愛着を持つ子どもの育成」を掲げ、【主な施策】の3において、郷土の自然、歴史・文化を学ぶふるさと学習の推進や国際交流活動を通じたふるさと富山の魅力の再発見などを記載している。 引き続き、ふるさと富山に誇りと愛着を持ち、地域社会や全国、世界で活躍し、未来を切り拓く人材育成に努めてまいりたい。
<b>4 たくましく成長するための支援と社会で活躍できる人材の育成</b>			
7	第1回総合部会	14歳の挑戦のような取組みを、例えば高校生を対象に行うなどし、働くということはどういうことを教えることが大切。 富山県に住みついて働くという仕組みをつくることを丁寧に取り組んでもらいたい。	【主な施策】の1において、学生等の職業意識の早期形成を目指したキャリア教育の推進について記載している。 県立高校においては、インターンシップや企業人による進路講演会等を計画的に実施するほか、普通科における県内企業理解促進への取組みを始めたところである。 今後とも発達段階に応じたキャリア教育の推進に努めてまいりたい。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
8	第1回総合部会	ものづくり県として、人手不足の解決のため、(高校再編にあたって)工業系県立高校の定数を維持すべきである。	県立学校整備のあり方等に関する報告書では、「工業科卒業生の関連進路率は高く、製造業を中心とした地域産業の担い手を育成することは重要であることから、工業科の定員割合については、ものづくり教育の重視の観点から、現在の定員割合を維持することが望ましい」とされているところであり、今後、報告書を踏まえて魅力と活力ある県立学校のあり方について検討してまいりたい。
9	第1回総合部会	ものづくり県として、人手不足の解決のため、県内大学の工業系学部の富山県枠を拡大すべきである。	県立大学においては、学科拡充・新設、入学定員の100名増員と併せて、県内高校生を対象とした推薦入学枠の拡充を図ったところである。また、富山大学においては、平成30年4月に、新たな理工系学部(都市デザイン学部)を設置予定である。このため、今後、県内高校生等の県内大学工業系学部へ進学者は増えると見込まれることから、志願者や入学者等の状況、また、県内産業界のニーズを踏まえたくえで検討してまいりたい。
10	第1回青年委員会	高校生の段階で進路設計を迫られるが、高校生は生活設計を具体的に考えられない。企業や団体が高校に向向いて職場や仕事をよりイメージできるよう合同の説明会を行うよう県で音頭をとってはどうか。	ご提案の趣旨である、高校生段階での進路設計は、委員ご指摘のとおり、大変重要であり、県教育委員会では、これまでインターンシップや外部人材を招いての進路講話を実施している。合同説明会のご提案については、学校の希望や意見を聞きながら、検討してまいりたい。
<b>5 若者の職業的自立や起業の支援</b>			
11	第1回青年委員会	働くことへの興味を引き出すことが大切。例えば若者が、自分が興味を持っていることがどのような職業につながるのか、世の中にはどのような自分が知らない職業があるのかなど、若者に知る機会をもっと与え、多方面への興味・関心を与える教育が重要。	【主な施策】の1において、若者の職業的自立に関する施策を掲げており、ヤングジョブとやまを活用した個別学生のニーズに応じた支援や中高生などの早期段階からの企業研究の実施に努めてまいりたい。
12	第1回審議会	日本の生産性は欧米に比べ低い。IT、システムを生産性を上げる道具として、人材育成に活かしていく必要がある。	活力10の【主な施策】の4において、人材ニーズの急速な変容に対応した人材育成に関する施策を掲げており、技術専門学院等の様々な訓練機関における新技術に対応した全世代型のスキルアップや学び直しの仕組み構築に努めてまいりたい。
13	第2回総合部会	若者に技術・技能を身につけさせるという入り口の整備だけでなく、技術・技能を高めて承継させていく意欲が下がらないように、技術・技能の社会的評価・対価を高めていくという視点を設定して欲しい。	人づくり5の【主な施策】の1において、若者への技能検定料の減免、技能競技大会への参加促進及び強化訓練支援について記載している。今後も、技能の振興・ものづくりを支える機運の醸成に努めてまいりたい。
14	第2回総合部会	若者を育てるという意味の「職業的自立」と既にやる気がある若者が新しい価値を作ろうという人に対する「起業支援」とを同じ政策にひとくくりにするのはどうか。起業は、産業政策に入れた方がよいのではないか。	「起業支援」については、主として活力4で位置づけています。人づくり5では、「職業的自立」として、広く産業政策の観点も踏まえ、若者の成長、能力発揮に資する観点から記載しております。
<b>6 若者の社会の一員としての自立促進</b>			
15	第1回青年委員会	消防団に若い人が入ってこないと聞く。消防団は地域とのつながりであり、若者自立のため、学生に消防団を見もらう機会をつくってはどうか。	【主な施策】の1において、消防団などの地域コミュニティ活動への若者の参加促進について記載している。
<b>7 女性が能力を発揮でき、安心して働き続けられる環境づくり</b>			
16	第1回青年委員会	女性の再就職が難しく、再就職できても非正規になっている知人が多い。辞められたことを後悔している方が多く、柔軟な働き方を選択できる環境が整ってほしい。県が先頭立って働き方改革を積極的に進めてほしい。	【主な施策】の2において、育児や介護等との両立ができる柔軟な働き方の促進について記載している。個別の取組みについては、今後検討してまいりたい。
17	第1回審議会	産業基盤の維持拡大のためには高付加価値の新規分野の開発と労働生産性の拡大が必要である。労働生産性向上には(1)企業の中規模化の促進、(2)女性の労働参加率の増加、(3)将来への企画開発研究が必要である。	人づくり7の【主な施策】の2及び4において、就業継続しやすい職場環境の整備や結婚、出産等を機に離職した女性の再就職への支援について記載している。また、活力10において、就職女子応援カフェの実施、女性のUターンを促すための事例集や動画の作成により女性のUIターン就職の推進に取り組むこととしている。
18	第1回審議会	人口の社会減を食い止めるためには、特に女性に富山県に戻ってきてもらうことが必要であり、若い女性を県内でどのように雇用したりしていくかが課題ではないか。	人づくり7の【主な施策】の2において、育児や介護等との両立ができる柔軟な働き方の促進について記載している。また、人づくり8の【主な施策】の2において、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定・届出支援について新たに記載。さらに、活力10において、就職女子応援カフェの実施、女性のUターンを促すための事例集や動画の作成により女性のUIターン就職の推進に取り組むこととしている。
19	第1回総合部会	特に女性が県外に出ていく傾向があるので、女性が希望するような職場をいかにたくさんつくるかという点が大事である。	同上



番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
20	第1回 活力部 会	女性の活用のためにも、女性に対する教育にしっかり支援してもらいたい。	【主な施策】の1において、女性の能力発揮に向けた支援の充実について記載している。
<b>8 女性のキャリアアップ、管理職への積極的な登用などの推進</b>			
21	第1回 青年委 員会	次世代法の計画と同様に、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画についても、県条例で例えば101人以上の企業の策定義務を上乗せできないか(国は301人以上)。	人づくり7、8において、女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画の策定・届出支援について新たに記載している。(県条例での上乗せについては、今後検討)
22	第1回 青年委 員会	(1)女性にしても(2)高齢者にしても、退職せずに継続して働くことができて、その中に充実や活躍というキーワードが入ってくるとそれが実施できている企業や実感できている社員は少ないのではないかと思う。退職後の再雇用で単純作業となったり、ずっと「活躍」を続けるのが難しくなっている。継続して働く制度がある程度浸透している今こそ、ずっと社会の一員であることを感じられる働き方ができる環境づくりが必要	仕事と子育て等との両立など女性が就業継続しやすい職場環境づくりについては人づくり7に、キャリアアップや管理職登用など女性がやりがいを感じ、活躍できる職場環境づくりについてはひとづくり8において、それぞれ記載している。
<b>9 女性の起業や再就職などの支援、女性の研究者・技術者等の育成</b>			
23	第1回 審議会	女性が希望する職場を増やしたり、工業系の職場も女性が進出しやすくなるよう意識改革が必要である。	【取組みの基本方向】において、ものづくり産業への女性の参画促進について記載している。
24	第1回 総合部 会	女性にもものづくりに関心を持ってもらえるような教育を行ってほしい。	【取組みの基本方向】において、次世代を担う女性の研究者や技術者を増やすための取組みの推進について記載している。
25	第1回 総合部 会	とやま科学オリンピックなどの取組みを通じて、理系女子の数を増やしていけば、女性の活躍の場が広がるのではないかと。	【主な施策】の2において、科学分野への興味や関心を高め、科学的才能等を伸ばす教育の推進を記載している。 とやま科学オリンピックについては、今年度も過去最多の参加者となったが、今後とも参加者の増加に努め、理工系分野を担う人材の育成に取り組んでまいりたい。
<b>10 がんばる働き盛りなどへの積極的な支援</b>			
26	第1回 審議会	中小企業ではなかなか難しい面はあるが、連携をとりながらしっかり働き方改革を進めることが、人材育成につながるのではないかと。	【主な施策】の1及び3において、経済・産業の発展を支える人材育成と長時間労働の是正等の働き方改革の推進について記載している。 働き方改革では、経済団体や労働団体、有識者で構成する「とやま県民活躍・働き方改革推進会議」を本年6月に設置するとともに、イクボス企業同盟とやまの設立、経営者向けのセミナーの開催など働き方改革の推進に向けた取り組みを実施していくこととしている。 人材育成については、急速な技術の進歩やグローバル化の進展に伴う企業ニーズの変化に対応した在職者訓練や、従業員のスキルアップを図る人材育成事業などを実施している。今後、関係団体などと連携し、働き方改革及び人材の育成にしっかりと取り組んでまいりたい。
27	第1回 青年委 員会	会社を辞めてから農業を始める人も多く、農業カレッジで65歳以上のコースを作って教えれば「かがやき現役率」も向上するのではないかと。	とやま農業未来カレッジについては、45歳未満の若い担い手の育成を目的としていることから、ご提案の趣旨については、主な施策の2などで、今後検討してまいりたい。
28	第1回 青年委 員会	県には起業未来塾という素晴らしい仕組みがある。例えば成績上位者に3,000万円与えるなど、積極的なインセンティブを与えてはどうか。	【主な施策】の1において、とやま起業未来塾による産業構造の転換や成長産業の見通しに対応した新しい感覚をもった起業家人材の育成を打ち出しているところである。 なお、ビジネスプランの優秀者に対しては、毎年(わずかであるが3~10万円)奨励金を贈呈しているところであり、金額については県予算を勘案しながら検討してまいりたい。
29	第1回 青年委 員会	起業未来塾の卒業生はサービス業が多いが、県の基幹産業であるバイオ、医薬品、製造業に誘導するなどトータルの政策として必要ではないかと。	【主な施策】の1において、とやま起業未来塾による産業構造の転換や成長産業の見通しに対応した新しい感覚をもった起業家人材の育成を打ち出しているところである。 また、平成27年度に「ものづくり・新伝統産業コース」を設置し、伝統産業等ものづくりの職人も入塾する等、受講コースについては、ニーズに応じた内容になるよう検討を行っているところである。 今後とも積極的に塾のPRを行い、多様な分野からの入塾生の受入れに努めてまいりたい。
30	第2回 総合部 会	「イクボス」ネットワークの構築については、宣言だけでなく会社の中で働き方を変える環境が大切。家庭における父親の意識改革も必要である。	【主な施策】の3において、「イクボス」ネットワークの構築を含む働き方改革の推進について記載している。 家庭における父親の意識改革については、未来3の【主な施策】の3において、「男性の家事・育児への参画の促進」として新たに柱立てして記載している。

番号	会議・回数	委員意見	具体的な対応内容
<b>11 コミュニティや地域活性化を担う人材が育つ環境づくり</b>			
31	第1回 総合部 会	婦人会ばかりでなく、自治会や消防団など地域コミュニティの人材がいなくなっている現状をどうするのが課題である。	【取組みの基本方向】において、地域コミュニティ活動への参加促進と地域を活性化し、活動の中核となる人材の育成について記載している。
32	第2回 審議会	地域の活性化には住民が主体となる活動も重要であるので、自治会のリーダーの意識改革の推進と地域創りのノウハウを学ぶ場づくり、優れた地域づくり活動の表彰等を通じたモチベーション向上の仕組みづくりなど、地域づくりリーダー人材の養成も考慮してはどうか。	【主な施策】の1において、コミュニティ活動の中核となるリーダー育成や住民主体の地域づくり活動への支援について記載している。
<b>12 大人から子どもへの貧困の連鎖の防止</b>			
		ご意見なし	
<b>13 元気な高齢者の就業・起業支援</b>			
33	第1回 青年委 員会	(1)女性にしても(2)高齢者にしても、退職せずに継続して働くことができても、その中に充実や活躍というキーワードが入ってくるとそれが実施できている企業や実感できている社員は少ないのではないかと思う。退職後の再雇用で単純作業となったり、ずっと「活躍」を続けるのが難しくなっている。継続して働く制度がある程度浸透している今こそ、ずっと社会の一員であることを感じられる働き方ができる環境づくりが必要	【取組みの基本方向】において、エイジレス人材の育成やかがやき現役率の向上について掲げ、とやまシニア専門人材バンクにおいて専門的知識・技術・経験を有する高齢者とこれらの人材を求める企業とのマッチングを一層促進し、高齢者が自らの能力を発揮し、活躍できるよう支援してまいりたい。
34	第2回 総合部 会	エイジレス社会の実現と「かがやき現役率」の向上というテーマを作って、高齢者に大々的に求めていってよいのか少し疑問に思う。	少子高齢化、人口減少が進むと見込まれるなか、当該テーマは地域の活力を維持していくうえで重要な観点であり、推進していく必要があると考えております。 エイジレス社会の実現やかがやき現役率の向上は、人口の減少が見込まれるなか、意欲ある高齢者がこれまで培ってきた知識や経験を活かし、社会の担い手として活躍できる社会の実現に向けて取り組むものであり、引き続き進めてまいりたい。
<b>14 高齢者の地域貢献活動の支援</b>			
		ご意見なし	
<b>15 高齢者の知識や経験、技能の継承</b>			
35	第1回 審議会	高齢者がこれまで培った知識、経験、技能を、若者を育てるために活用することが必要である。みんなで経験豊かな人々を大事にして、その人たちのいろんな知識を私たちは受け継いでいきたい。	【主な施策】の2及び3において、優れた熟練技能者からの技能継承、後継者の育成について記載している。